

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

【基本情報】

氏名・団体名：

走出 慧太 (個人)

学校名：

海城高等学校

- ① **あなたが関心を持つグローバルな社会課題は何ですか？
その課題を選んだ理由や、きっかけとなった出来事・経験などがあれば教えてください。**

課題: 人道支援における「支援者のバーンアウト」と「二次的トラウマ」

選んだ理由・きっかけ:

これまで私は自殺防止のための相談・支援を行うNPOを一つに集約するプラットフォームの作成を試みてきた。しかし、その実現性を考える中で、AIが最終的に繋ぐ先である「人間の相談員」自身の心が限界に達しているという事実気づいた。

世界中で紛争、災害、貧困問題に取り組む支援者たちが、過酷な現実を目の当たりにすることで精神的に疲弊し、現場を去ってしまうケースが後を絶たない。

支援者が一人倒れることは、その先にいる数十、数百人の救われるべき命の機会が失われることを意味する。この「負の連鎖」を断ち切ることこそ、最も持続可能でインパクトの大きい国際協力だと考えた。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

② その課題の解決に向けて、あなたが考えるアイデアやアプローチを教えてください。

技術、仕組み、キャンペーンなど、発想そのものを自由に書いてみよう！

アイデア: 支援者のための匿名メンタルケア・プラットフォーム「AI-MATE」

アプローチ（機能）:

匿名ジャーナリングとAI感情分析:

支援者が日々の業務で感じたストレスや感情を、PCやスマホから匿名で記録。AIがそのテキストデータを分析し、「バーンアウト」や「二次的トラウマ」の兆候をスコアリング・可視化する。関連論文などを調査し、バーンアウト状態に特有の言語パターン（例：感情語彙の減少、一人称単数の多用など）を特定し、分析ロジックに組み込む。

AIによる「リフレクション（内省）」支援:

「今日は大変でしたね。特にどの瞬間に無力感を覚えましたか？」など、AIが認知行動療法に基づいた問いかけを投げかける。これにより、支援者は自身の感情を客観的に見つめ直し、一人で抱え込まずに済む。

データに基づく組織改善提案:

個人のプライバシーは完全に保護した上で、組織全体のストレス傾向を統計データとして可視化するダッシュボードを管理者向けに提供。汎用LLMをチューニングしたAIでデータを分析し、「特定の地域に派遣されたチームのストレスレベルが急上昇している」「特定の業務内容で『無力感』という単語の出現頻度が高い」といったインサイトを自動で抽出。

組織は、客観的データに基づいた人員配置の見直しや、必要な研修の導入が可能になる。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

③ そのアイデアを実現するとしたら、どんな準備やステップが必要になると思いますか？

「いつ・どこで・誰と」連携するか、必要なリソースや協力体制など、実現までの道筋を描いてください。

「いつ・どこで・誰と」連携するか

【スケジュール計画】

1～3ヶ月:

徹底的な文献調査。バーンアウト尺度（MBI）や二次的トラウマ尺度（STSS）に関する論文を読み込み、AI分析の精度を高める。並行して、国内の国際協力NGO職員へオンライン・ヒアリングを実施。

4～6ヶ月:

既存のLLMのAPIなどを活用し、ジャーナリング機能とAIリフレクション機能を持つWebベースのプロトタイプを開発。

7～9ヶ月:

事前に協力関係を築いたNGOのチームや追加で公募をかけるなどして得たボランティアに、プロトタイプを試験導入。匿名で日記を記録してもらい、有用性に関するフィードバックを収集

10～12ヶ月:

収集したテキストデータとバーンアウト尺度の変化やストレス度などを分析。AI-MATEの利用とストレス軽減の相関関係を明らかにし、コンテストでの成果報告としてまとめる

必要なリソースや協力体制

【予算計画】

①総予算:

45万

円

②費用の内訳(例…印刷費2万円、交通費5万円):

技術開発・運用費(合計: 200,000円)

プロトタイプ開発費(LLM API利用料): 50,000円

Webサーバー・ドメイン費: 50,000円

AIモデルのファインチューニング費用: 100,000円

調査費(合計: 120,000円)

交通費: 50,000円

参考文献・資料購入費: 20,000円

オンライン調査ツール利用料: 20,000円

学術論文データベース利用料: 30,000円

その他(合計: 130,000円)

クラウドファンディング手数料・返礼品費用: 50,000円

予備費: 50,000円

印刷費等: 30,000円

③資金調達方法

(例…クラウドファンディング、学校からの補助金):

クラウドファンディング

④ そのアイデアの実現に向かって今のあなたが踏み出せそうな一歩（アクション）はありますか？

☐すでに取り組んでいることがある：できるだけ具体的に教えてください。

☐まだ実行していない：「これなら始められそう」と思う最初の一歩があれば書いてみてください。

✓また、そのアクションを始めるうえで、あるいはさらに広げていくうえで、自分にとってどんな支援や環境があると助かるかも教えてください。

私が今とりうる最初の一歩は、「徹底的なリサーチと課題の解像度向上」である。机上の空論で終わらせないために、テクノロジー開発に着手する前に、まず2つのフェーズで構成される基礎調査を徹底的に行う。

1. データと文献に基づく理論的基盤の構築

自身のAI技術とデータ分析スキルを駆使し、まずは「支援者のバーンアウト」と「二次的トラウマ」に関する膨大な先行研究や報告書を体系的に分析する。国連や世界保健機関の公式レポート、主要なNGOによるフィールド調査報告、そして心理学や精神医学分野の学術論文を網羅的に読み解き、支援者が精神的困難に陥る際の言語的・行動的特徴にどのようなパターンが存在するのか、客観的データに基づいた強固な仮説を構築する。これにより、開発するAIがどのような点に着目すべきかの精度を極限まで高める。

2. 現場の声に根差した仮説の検証

次に、1のステップで得た仮説を基に、より具体的なヒアリング項目を設計し、大学のキャリアセンターやSNSなどを活用して、実際に国際協力の現場で活動する職員、帰国者、また彼らを支えるカウンセラーや組織の人事担当者へアポイントメントを取り、オンラインでのヒアリングを開始する。このヒアリングを通じて、「理論」と「現場のリアルな感覚」とのギャップを埋め、プロジェクトが真に現場で求められるものになるよう細かい修正を行う。

あとありがたい支援について

専門家からの専門的助言（メンターシップ）

メンタルヘルスという非常にデリケートな領域を扱う上で、倫理的な配慮と専門的知見は生命線である。臨床心理士や精神科医、そして長年の現場経験を持つ国際協力の専門家から、開発するツールの問いかけの妥当性や、ユーザーのプライバシー保護のあり方について定期的に助言を得られるメンター制度のような支援があれば、プロジェクトの信頼性と安全性は飛躍的に向上する。

人道支援の現場との繋がり

学生という立場では、人道支援団体の内部事情や、職員が抱えるリアルな課題にアクセスするには限界がある。コンテストを運営するJANICのような、多くのNPO/NGOとのネットワークを持つ組織から、ヒアリングや将来的なプロトタイプのテスト導入に協力いただける可能性のある団体を紹介いただく機会があれば、プロジェクトの実現性は格段に高まる。

技術的な壁打ちができるコミュニティと演算資源

AI開発やデータセキュリティの構築は、一人で進めるよりも多様な視点があった方が、より堅牢で優れたものとなる。同じように社会課題の解決を目指す他の学生や若手技術者と繋がり、技術的な課題について気軽に相談し、アイデアをぶつけ合えるようなコミュニティや環境があれば、開発の質とスピードをさらに加速させることができる。また、豊富なGPUを積んだサーバなどの演算資源も、AI作成・データ分析を行なっていく上では欠かせない。